

産物は主として穀類にして來集年額約二萬石内外其内高粱約八割を占め殘餘は大豆其他の雜穀なり。

六、商工業

商家は雜貨舖及二、三の當舖を主とし、商業取引は蒙人を顧客とする農産、畜産物の擔保貸付的營業にして他地方に於けるが如き一般商取引盛ならず。唯前記穀類の大部は新立屯、錦縣方面に移出し、雜貨は主として營口方面より移入するに過ぎざるなり。

(ロ) 蒙古鎮

一、沿革及位置

當地は東土默特王府の所在地にして、南七十支里にして清河邊門に、北百八十支里にして小庫倫に、東四十支里にして阜新に西百四十支里にて西土默特王府に達す。

二、戸數及入口

戸數約百五十、人口千四百を算し、内漢人七十戸、人口五百、蒙人八十戸、人口九百(内喇嘛六百、王府巡警百、官吏其他二百)なり。

三、市街の狀況

未だ市街と稱する程度に至らず、東西約一支里の一條より成る部落にして大提河と其支流の中間哈特哈山の南麓に在り。西は大提河を隔てて小丘南北に連り南は平坦地なり。

王府は部落の東端に位し、大提河の支流に臨み境内は廣濶にして周圍は高き城廓を以て繞らされ規模壯大高、天空に聳む内に王府官吏の事務所、兵營及花園等あり。

又南方には壯麗なる大廟及喇嘛僧の住宅等規則正しく軒を運ぬ、其他北方にも大小の喇嘛廟ありて僧員の總數六百に餘る純黃、純紫の衣服身に纏ひたる彼等の來往四時絶ゆることなし。

四、官公衙其他の諸機關

王府、兵營及大小の喇嘛廟等とす。

五、一般産物及特産物

産物の主なるものは高粱、粟、蕎麥、豆等の農産物にして粟は蒙古人の常食に供せられ殆ど移出力なきも其他の穀類にしし移出せらるる年額は大約高粱四千石、蕎麥二千石、元豆(大豆)二百石、綠豆二百石内外なり。

六、商工業

由來當地は王府及喇嘛廟を生命とする所にして最初王府は開發の目的を以て店舗を建設し、之を民間に貸付を試みし以來住民の來集、商店の開業漸次増加し、現今に於ては街衢稍々整頓し商家三十餘戸を算するに至れり。

移出品は前記の如く小額の穀類あるに過ぎざるも當地一帶の農民は蒙人其七、八割を占むる關係上蒙



人の需用品多く従つて布疋、茶、燒酒、葉煙草、嗅煙草等の移入少からず。而して其仕入先は主として清河邊門にして新立屯よりするもの少なく茶及砂糖は時に錦縣城に仰ぐことあり。移入品目及其年額を擧ぐれば大略左の如し。

品目	數量	品目	數量
花尺布	一、〇〇〇疋	茶葉	五〇〇箱
大尺布	八〇〇〃	洋麵(麥粉)	二〇、〇〇斤
綢子	三〇〇〃	白麩(麥粉)	二〇、〇〇〃
燐寸	一〇〇箱	綿麻	二〇〇〃
嗅煙草	五〇斤	燒耐	一〇〇、〇〇〃
石油	七〇〇箱	食鹽	一〇〇石
葉煙草	一〇、〇〇〇斤	石炭	三〇〇、〇〇〇斤
砂糖	五〇包	打連布	一、〇〇〇疋
洋綿布	三、〇〇〇疋	紙類	五〇〇套

(ハ)、鶯歡池

阜新の東北七十支里、彰武縣哈拉套街の西方五十支里に位し、戸數二百三十、人口約二千を算し、街衢は不規則なれども此地方に於ては大邑鎮の一たるなり。巡警局、保衛團、郵便局、小學校、喇嘛廟等ありて、市内稍々繁盛日常相當の取引行はれ、主たる街衢は一條なれども其長さ二支里に達す。

産物は各種穀類及畜産品にして、其集散高は前者約二萬五千石後者(皮)一萬枚内外なり。移入品は各種雜貨にして大部阜新方面より送らるるも一部は哈拉套街よりせらる。

九、綏東縣

(イ)、綏東

一、沿革及位置

元と蒙古錫埒圖庫倫喇嘛旗及奈曼旗の領地にして、既に康熙末葉頃より牛馬市として開放せられ、滿漢人との交易盛に行はれたる地なり。

光緒三十一年(明治三十八年)頃より荒地を開放し招民開墾を奨め、同三十四年に至り置縣して小庫倫なる地を下して縣城地となしたるものなり。

俗に庫倫兒と稱し、新民屯の西方を流るる新開河の上流に在りて、阜新縣城の北方百七十支里、彰武縣城を去る西方百八十支里、北方開魯に至る約三百支里に位す。



二、戸數及人口

戸數約二千人人口一萬五千六百内外を算す。

三、市街の狀況

市街は四面丘阜に圍まれ、殊に南北兩面に高地を負ひ、市の中央に小河流れ數條の架橋あり。街衢は大約三部に分たれ、其南なるは回教者(大部は牛馬の仲買人なり)の住宅にして、中央部は商業區を成し主なる商家は悉く此所にあり。西部なるは諸官衙、商家及住宅の混在する區域たり。家屋は少數の瓦葺を除き、他は土造土葺又は草葺にして規模の大なるもの少なし。

市街の概況上の如くなるが高所に登りて瞰下すれば一種の圖形を成し、周圍の山形と相映つて風光明媚の觀あるも事實は到る所に塵埃推積し其不潔なる失望せざるを得ざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

綏東縣公署及其附屬官署、監獄、理財所(屠殺稅及車稅徵收所)、煙酒公賣局、郵便局、電報局、巡防隊、商務會、高等初等小學校、喇嘛王府、喇嘛廟、基督教會堂、回々教會、老爺廟、娘々廟等あり。喇嘛廟の喇嘛は錫埒圖庫倫喇嘛と稱し其名高く、領内の蒙古人に對し行政及司法權を有すること蒙古王に異らず、其權力偉大なるものあり。

五、一般產物及特產物

當地に於ける主なる產物及集散物の年概數次の如し。

品名	數	量	品名	數	量
牛	一五、〇〇〇頭	羊	皮	七五、〇〇〇枚	
羊	一〇〇、〇〇〇斤	土	城	二二五〇、〇〇〇斤	
馬	九、〇〇〇枚	羊		一七、〇〇〇頭	
馬	五〇〇、〇〇〇斤	牛	皮	二二、〇〇〇枚	
甘	五〇〇、〇〇〇斤	牛		一〇〇、〇〇〇斤	
馬	五、〇〇〇頭	麻		二、〇〇〇盒	
豚	一五〇、〇〇〇斤	面	城		

六、商工業

(イ) 商業

商家は大小約三百戸に達し、其内主なるものは雜貨舖、京貨舖、粮棧毛皮店、燒鍋、油坊、磨坊、染坊、茶舖、毯子舖等なりとす。

移出品は前記產物にして、其仕向地を記せば左の如し。



品名	仕向	地品	仕向	地
牛	奉天方面九、其他の地方一、	豚	主として奉天方面	
馬	主として奉天方面	瓜	子營口八、奉天二、	
麻	主として奉天方面	羊	奉天、新民屯方面	
羊	主として奉天方面	羊	主として奉天方面	
馬	主として支那軍馬に供給	甘草	主として奉天方面	
牛	奉天七、營口三	土城及面城	營口七、奉天二、錦縣一、	

移入品は綿糸布及雜貨類にして年額五十萬元内外と稱せらる。今其概略を左に述べべし。

品名	數量	品名	數量
大連布	一、〇〇〇捆	麥粉	五〇〇袋
綿糸	一五〇〇	陶磁器	三、〇〇〇元
赤砂糖	六〇包	紙類	一〇、〇〇〇元
蠟燭	一五〇箱	海產物	五、〇〇〇元

茶	五〇、〇〇〇元	豆	二〇、〇〇〇斤
花旗布	一、二〇〇捆	坑上敷物	三、〇〇〇枚
白砂糖	二五〇包	線	五、五〇〇元
燐寸	五〇〇箱	線	一、五〇〇元
卷煙草	八〇箱	藍靛	六〇、〇〇〇斤
鹽	一五〇、〇〇〇元	醬油	一〇〇樽
大尺布	三〇〇捆	麻繩	八、〇〇〇元
水砂糖	三〇〇包	木材	五、〇〇〇元
石油	三、〇〇〇箱	石炭	三〇〇、〇〇〇斤
葉煙草	四〇〇包	粳米	五〇〇石

前記の内石炭は結氷期中新邱より來り、他は主として奉天、營口より移入す。

此地は蒙古に赴く隊商の根據地にして一見住宅區域の如く見ゆる者の中に此隊商の専門業者若くは之に關係あるものの少からざるは他地方に類例少き一特徴たり。

(ロ)工業



燒鍋、油坊、磨坊、染坊、醬園、銀匠舖、鐵匠舖、木匠舖等の製造業あるも何れも土式且つ小規模にして未だ特記に價する程度に達せざるなり。

## 七、雜件

當地に僧數各五百名を有する象教寺、福緣寺の二大喇嘛廟ありて、毎年舊の正月、四月、六月の十五日及九月二十二日に廟會即ち廟の祭典行はれ、同時に開市ありて畜産諸品並に各種雜貨の取引行はれ蒙支人の來集頗る多く市況殷賑を極め、熱鬧の巷と化す。又以て此地の一名物と謂ふべし。

## 一〇、赤峰縣

## (イ) 赤峰

## 一、沿革及位置

元と蒙古翁牛特左右翼二旗の領域にして、往時は蒙人のみより成る部落なりしが、康熙年間より滿漢人の來住するもの漸く多く兎角する内歲月の經過と共に蒙古貿易市場となりたるものなり。

雍正七年(紀元二千三百八十九年)烏蘭哈達廳を置き、爾來招民開墾を奨めたる結果乾隆嘉慶年間に至りて一層住民増加し、商業亦殷盛に赴きたるより、治縣して赤峰縣と稱したり。後光緒三十三年(明治四十年)一度州に改めしが民國二年再び變じて縣となしたり、之を現今の赤峰縣なりとす。

北京を去る東北九百餘支里、錦縣城の北方五百四十支里(一説には六百支里とも稱す)、熱河に至る四百

三十支里に位し原名を烏蘭哈達と稱す。蒙古語にて烏蘭は紅、哈達は山を意味す、即ち紅山の義にして、市街の東北約五支里、英金河畔に直立せる赫色の奇峰に因みて命名したるものなり。而して現名の赤峰は其漢約名にして通常哈達と略稱す。

## 二、戸數及人口

戸數約三千三百、人口二萬九千と稱せられ、山東人最も多く直隸及山西人之に亞ぐ。外國人には英人二名、白人一名、日人三十五名あり。

## 三、市街の狀況

市街は東方に砂丘連亘し、西北は英金河に臨み東西約五支里、南北三支里に及び、幅約十二間の大道六條東西に直通し、北より頭道街、二道街、三道街、四道街、五道街、六道街と名づく、二條の横街其南北に通じ一を西横街他を東横街と稱し、路幅約二間なり。其他幾分の小街交叉し、街衢は比較的整然たり。主なる商家は二道街三道街及西横街に櫛比し、商況頗る殷盛なり。又穀物市場は三道街の東西二箇所に馬市は二道街に開かる。

家屋は主として煉瓦造瓦葺の平家建にて樓層としては二道街に天主教堂及三層の住宅並に西横街に清真寺の塔高く聳ゆるのみ。

路盤は一帶に砂土なる爲め降雨に際しては泥海と化し、旱天には黃塵天を覆ひ暗黒界に化すること



あり。

市街の周圍には別に城壁なし、従つて其發展に伴ひ自由に膨脹擴大することを得るは便利なり。

四、官公衙其他の諸機關

赤峰縣公署、警察所、監獄、軍隊、同司令部、郵便局、電報局、電話局、税局、鹽務局、車税局、屠税局、煙酒公賣局、翁牛特旗地局、交渉局、商務會、農務會、銀行、教育會、師範學校、高等初等小學校、耶蘇教小學校、蒙古學校、喇嘛廟、關帝廟、回々寺院、天主教堂、福音堂及我領事館等あり。

五、一般產物及特產物

(イ)、農產物

一 小麥、粟、高粱、豆類、大小麻子、蕎麥、瓜子、麻等を産す。

(ロ)、畜類

當地は往時より畜産市場として知られ、其年集散高頗る多數に上りしが現今は稍々衰退の傾向あり。其原因開墾進み農耕地増加の結果なるべし。主なるものは牛馬、羊豚、騾驢等なり。

(ハ)、毛皮類

毛皮類の主なるものは羊皮、牛皮、馬皮、狐皮、豹皮、猫皮及羊毛、駝毛、猪鬃、馬尾、馬鬃、羊絨等なり。

(ニ)、天然特產物

鹽、甘草等あり。就中甘草は其數量多く内外人の着目する所たり。

(ホ)、工業製品

燒酒、麥粉、油、皮革、絨氈等を製す。此内麥粉は土法に依り製せられ、色彩純白ならざるより一見不良品の觀あるも、事實質頗る佳良美味を以て其名を知らる。

六、商工業

(イ) 商業

當地は實に四通八達の好地位にありて西南は熱河を経て北京に、平泉を経て天津に通じ、東南は朝陽を経て錦縣城に通じ更に營口を連ね、又凌源及綏中を介して山海關方面に連絡し、西北は林西、經棚に、東北は開魯に通じ古來より此等諸都市との間に或は需或は供給行はれ、以て進歩し以て發達し來りしなり。然るに東支鐵道の敷設に次ぐに四洮鐵道及鄭白支線開通せられ、且つ屢々蒙匪の擾亂に災せられし等の原因により現今は市況稍々蕭條を呈し來りしと雖も今尙ほ移出入年額七百萬元以上に達するを見れば、依然として東蒙に於ける最大市場たるを失はざるのみならず、將來交通の發達、礦山其他諸工業勃興し、農事の改良、商埠地の設定等實現するに於ては、益々發展すべきは疑はざる所なり。



現在商家千餘戸に達し雜貨舖、粮店、鹽舖、皮舖、藥舖、錢舖、當舖、毯子舖、木匠舖、燒鍋、油坊磨坊、染坊鐵匠爐等を其主なるものとす。

外國商店の代理店は英美煙公司を始めとし謙信洋行(獨)、德和洋行、魯麟洋行(獨)、永興洋行(佛)、禮和洋行(獨)、華泰洋行(英)、瑞和洋行(英)、興隆洋行、克立洋行、瑞記洋行(獨)、福山洋行(獨)、平和洋行(英)、立興洋行(佛)、怡和洋行(英)、美隆洋行(米)、高林洋行(英)等なり。

移出品は前記産物にして其年數量次の如し。

品目	目數	量	摘	要品	目數	量	摘	要
小麥	二〇〇,〇〇〇石	錦、朝陽、凌源、平泉地方	燕麥	一、〇〇〇石				
大麥	二、〇〇〇〃	馬糧及醸造用	大麻子	四〇,〇〇〇〃				搾油原料
蕎麥	七〇,〇〇〇〃		小麻子	五〇,〇〇〇〃				搾油原料
粟	八〇,〇〇〇〃		瓜子	一〇,〇〇〇〃				主として錦縣方面
大豆	八、〇〇〇〃		其他豆類	一〇,〇〇〇〃				
馬	三、五〇〇頭	奉天、直隸地方	牛皮	一〇〇,〇〇〇枚				主として奉天、錦縣及天津地方
牛	四、〇〇〇〃	主として錦縣方面	狐皮	一〇,〇〇〇〃				

豚	二五、〇〇〇頭	錦縣方面	狗皮	二〇,〇〇〇枚				
羊	一五、〇〇〇〃	京津地方	猫皮	一〇,〇〇〇〃				
騾	一、〇〇〇〃	南方及東方各地	駝皮	二、〇〇〇〃				
驢	三、〇〇〇〃	南方各地	狼皮	八、〇〇〇〃				
羊皮	五〇〇,〇〇〇枚	京津及錦縣方面	羊毛	一、五〇〇,〇〇〇斤				毛類は主として天津、 錦縣地方の割合
馬皮	七〇,〇〇〇〃		駝毛	四〇,〇〇〇〃				
猪毛	一〇〇,〇〇〇斤		燒酒	三、七〇〇,〇〇〇〃				年醸造高
猪鬃	四〇,〇〇〇〃		鹽	三、〇〇〇,〇〇〇〃				
羊絨	三〇〇,〇〇〇〃		甘草	二、〇〇〇,〇〇〇〃				大部天津
馬尾	二〇,〇〇〇〃		麥粉	四、五〇〇,〇〇〇〃				年製造高
馬鬃	二〇,〇〇〇〃		油	一、二〇〇,〇〇〇〃				年製造高
麻	四〇〇,〇〇〇〃	奉天方面						

次に移入品の種類並に年數量を掲ぐれば次の如し。



品目	数量	仕入先	品目	数量	仕入先
綿布	三〇〇、〇〇疋	錦縣を主とし天津之に亞ぐ	タオル	一〇、〇〇〇打	天津錦縣地方
綿フランネル	五、〇〇〇〃	錦縣地方	石鹼	一、五〇〇箱	天津錦縣地方
綿糸	八〇、〇〇〃	錦縣地方	白砂糖	三、〇〇〇俵	天津錦縣地方
棉花	八〇〇、〇〇〃	錦縣地方	海産物	三、〇〇〇〃	天津錦縣地方
羅紗	六七、〇〇〇尺	天津	洋粉	五、〇〇〇斤	錦縣地方
腿帶子	七、〇〇〇打	錦縣、天津	高套細布	三〇〇、〇〇〇疋	支那人の足を包む布にして錦縣及天津
染料	二、〇〇〇斤	天津	石油	八、〇〇〇箱	錦縣地方
茶	一五、〇〇〇〃	天津	卷煙草	三、五〇〇〃	錦縣地方
燐寸	八、〇〇〇箱	錦縣地方	赤砂糖	四、〇〇〇俵	錦縣地方
蠟燭	六、〇〇〇〃	錦縣地方	氷砂糖	三、〇〇〇〃	錦縣地方

前記の内綿布は日本品及上海物最も多く綿糸は日本品の賣行最も良好なり。又燐寸、石鹼、白砂糖等は從來日本品を主とせしも近來は上海方面よりするもの大部を占む。

(ロ)工業

工業は總て土式にして規模大なるものなきも頗る盛なり。今其概略を述べれば次の如し。

(一)燒鍋 當地工業の主なるものにして、現在十七戸三十七班あり。一班一日の釀造高は三百五十斤内外、一箇年十萬斤にして、三十七班の年總製出高は三百七十萬斤に達し、其過半は烏丹城、經棚、林西、多倫、熱河、天寶山、庫倫、開魯等の各地に移出す。就中烏丹城、經棚、林西最も多し。

(二)磨坊 燒鍋と共に當地製造業の主要部を占め、大小百餘戸に達し、大なるものは五班裝置を有し、小なるは半班裝置にして原料は小麥、燕麥、綠豆等を使用す。

全戸一箇年の製粉高四百五十萬斤にして一部は凌源及朝陽地方に移出せらる。

(三)油坊 油坊は元と十數戸ありたるも漸次減少して、現在は七戸に過ぎずして小規模なり。原料は大麻麻子を使用し、一箇年百萬二十斤内外の麻油を製出し、小麻油は食料に供し、大麻油は車軸用及製革用とす。

(四)毡子舗 毡子舗は即ち絨氈製造所にして、十戸なるが其内大なるもの四戸あり。原料は羊毛を用ふるを常とするも、時に羊毛、爐毛、馬毛等を混することあり。

其製法は簡單にして先づ羊毛を洗滌し、棒を以て打ち簧上に平等に散布し、巻きて之を緊結せしめ後簧より取出し、足踏又は大槌にて毛毡に製するものなり。而して當地に於ける年製造高は大小二萬枚に達す。



(五)製蠟業 斯業に従事せるもの十餘戸あり、年製造能力は一萬斤内外のもの多く、三萬斤内外のものは僅に二、三戸に過ぎず。原料は羊油牛油を主とし、時に大麻油を混することあるも其質良好ならず。

(六)染坊 當地には八十餘戸の染坊あり。此の地の製品は他地方のものに比し、長く變色せざるを以て其名を知らる。

(七)甘草「エキス」の製造 當地に邦人の經營に係る甘草「エキス」の製造場あるも、内地財界の影響を受け近來事業の不振なるは遺憾なり。

以上の外製紙、製革、製材、鐵工所等あるも、何れも小規模にして特記する程度のものなし。

(ロ) 十分大

赤峯を去る東南五十支里の平地に位し、戸數約五百、人口三千餘を算する大部落なれども商家と稱すべきは稍々なる大雜貨舖二及旅店三なり。

附近よりは高粱、粟、其他の雜穀を産するも、其額多からず。

毎月一、六の市日には穀類、布疋、雜貨等市場に現はれ四圍の各部落より來集する顧客多く頗る賑なり。

當地の南方一支里に炭坑あり、本坑は斜坑二、豎坑三より成り、何れも深さ二十五丈餘ありて、一坑に苦力百四十内外を使用し、晝夜交代にて作業しつつあり。採掘の最も盛なるは十、十一、十二の三箇月

にして一日の出炭量は三萬斤乃至五萬斤に達し、其種類も塊炭、粉炭、面子の三種に區別せらる。

當炭坑は光緒二十九年頃より開掘せるものにして、炭田は南建平、北赤峯附近に及び東西各五十支里の廣大なる地域に亘り、赤峯附近の炭質最も良好なりと云ふ。當地の西一支里の平地に一炭坑あり。

現在休稼中に屬するも、元と機械を使用して採掘せる形跡あり。

(ハ) 初頭郎

赤峯の西方七十支里、英金河流域の盆地に位し戸數約百、人口千内外を算し、貧弱なれども街形を爲し、巡警局、郵便局、小學校等あり。

産物は麻、高粱、粟等を其主なるものとし、麻は年産額四萬斤と稱せられ、主として熱河方面に送らる、高粱、粟は當地の需用を充すに過ぎずして、未だ移出せらるるものなし。

(ニ) 大廟

赤峯より多倫に通ずる大道上、赤峯を去る西方百四十支里に位し、英金河の左岸に在り。戸數約百、人口八百内外を算し、巡防隊、巡警局、郵便局、小學校等あり。

市街は東西二部に分れ、東街は土壁を繞らし、戸數六十(商家約十六戸)より成る一條街にして、西街は小河の西に位し、戸數約四十其内商家五戸及喇嘛廟あり。

産物は主として小麦、麻、粟、高粱等の農産物にして就中小麦最も多し。其他産物として算ふべきは



羊毛にして主として赤峯を経て天津方面に移出せられ、其年額十五萬斤内外に達す。

(ホ) 烏丹城

一、沿革及位置

當地は東翁牛特旗領に屬し、民國二年赤峯縣の設置せらるるに及び其管下に入れるものなり。

地名を蒙古語にて「ボロホトン」と稱し赤峯縣城を去る北方百八十支里、北方林西に至る三百支里、經棚の東南三百六十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數約七百、人口四千餘を算し、其内邦人三戸四名ありて賣藥業を營む。

三、市街の狀況

市街四圍砂丘を以て繞らされ、南北二支里半、東西二支里に亘り、街衢は不規則なり。元と周圍に土壁を有せしも現今は僅に北方に其一部を止むるのみなり。

四、官公衙其他の諸機關

警察分所、東翁牛特王府、稅局、蒙鹽分局、兵營、郵便局、電報局、小學校、商務會、銀行、關帝廟等あり。

五、一般產物及特產物

產物は小麥、粟、高粱、豆類、蕎麥、瓜子等の農產品及畜類並に其副產物、藥材(甘草、防風等を主とす) 蕪菇等なり。

六、商工業

(イ) 商業

當地と商關係を有する地方は赤峯、錦縣城にして、甘草(年額三十萬斤)毛皮類を移出し、布疋雜貨等を移入す。

商家の主なるものは雜貨舖三十、糧店三、磨坊十、染坊三、燒鍋一、皮莊十、皮舖四、毯子舖五、木匠舖四、銀匠舖五、鐵匠舖四、藥舖二等なりとす。當地に於て特筆すべきは毎月二、四、七、九の日に開市ある一事なり、當日は糧市、牛馬市、柴市の開設ありて、午前六時より十二時に至る間は蒙支人頗る雜踏し、街上の通行に困難を來すこと珍しからざるなり。當地は古くより赤峯の前衛地として其名を知られ、奥地との通商は此地を經由して行はれ、商業繁盛なりしが、近來林西、開魯の發展により市況稍々衰退の狀を呈しつつあり。然れども取引の三分の二は蒙人相手なるを以て、今尙ほ赤峯の前衛として、將又蒙古隊商の根據地として東蒙に於ける重要都市の一たるを失はざるなり。

(ロ) 工業

工業は燒鍋、磨坊、油坊、毯子製造業等にして、他に特記すべきものなし。



今此等工業に就き概記せば左の如し。

- (一) 燒鍋 一戸あり資本小洋一萬元にして、一班装置を有し、一箇年約十萬斤の燒酎を製出す。而して其製品は悉く當地に於て消費す。
- (二) 磨坊 製粉業にして、之を專業とするもの十一戸あり。副業とするものを合すれば百戸に垂んとす
- (三) 毯子製造業 即ち絨氈製造業にして、十數年前より開始せられ、現在斯業に従事するもの五戸ありて白、茶、黒、藍等各種色合の絨氈を製造す。販路は上等品(原料羊毛)は天津、北京、錦縣城等にして、下等品(原料は牛馬毛を用ふ)は蒙人の需用する所たり。

一一、建平縣

(イ)、建平

一、沿革及位置

元と蒙古喀喇沁右翼及中旗の治域にして放牧地帯なりしが光緒三十三年(明治四十年)の頃より荒地を開放し、移住開墾を奨めしより、在民漸次増加し、同三十四年置縣せられたるものなり。

二、戸數及人口

縣公署所在地なるも戸數約二百、人口千二百内外を算するに過ぎず。

三、市街の狀況

市街は西に山を負ひ、東は伯爾河に接し、周圍は繞らずに東西約一支里、南北二支、高さ丈餘の土壁を以てし、南北二門あり。煉瓦造にして、何れも宣統三年の建造に係るものなりとす。

街衢は南門より北門に通ずる一條にして家屋無きに非るも空地多し。而して此南北街は幅約四間にして兩側に人道を設け十數間毎に街路樹あり。

家屋の構造は矮小には非ざるも土造多く、瓦葺家屋は僅に數戸あるに過ぎざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

建平縣公署、巡警局、巡防隊、監獄、郵便局、電報局、商務會、農務會、觀學所、高等、初等小學校、關帝廟、老爺廟等あり。

五、一般產物及特產物

產物は特に見るべきもの少く僅に馬、騾、驢等の畜產物及高粱、粟、蕎麥、豆類等あるに過ぎざるなり。

六、商工業

當地は現に縣公署の所在地なるも地勢頗る狹隘なる丘陵間に存在し、赤峯、錦縣城街道は當地を經る時は約二十支里の迂廻となるを以て、近道を取るもの多く爲めに當地經由人馬の來往少し。従つて建



設以來相當の歲月を經過するも大なる進歩を見ず將來の發展も覺束なき地なり。されば商工業に就ては特記すべき價値なし。唯市門唯一の賣買機關として、毎月陰曆三、八の日に開市あり、當日は四圍三、四十支里の村落より來集するもの多く、穀類、雜貨等の取引行はれ多少賑なるのみ。今參考として此地に於ける商工業家數を列記すれば次の如し。

- 雜貨店 七 洋貨舖 一 京貨舖 一 糧車店 三
- 燒鍋 一 磨坊 四 染坊 一 皮舖 二
- 藥舖 三 木匠舖 五 首飾舖 一 油舖 五
- 鐸爐 一 饅頭舖 二 鞋靴舖 一 鐘表舖 一
- 成衣舖 二 深塘 一 飯館 二 其他 八

(ロ) 黒水

元と蒙人より成る一小部落なりしが、附近一帯の開墾せらるるに伴ひ滿漢人の移民漸次増加し、遂に今日之の如く大部落を形成するに至りしものにして、赤峯に通する道路上建平縣城の西北八十支里に位す。

戸數約二百、人口千八百内外を算し、巡警局、遊撃隊、郵便局、税局、商務會、小學校等の機關あり市街は不規則なる一條より成り、家屋の構造概して堅牢ならず、煉瓦造の家屋を見ること稀なり。

市街の東端に泉あり其湧水黒色を帶ぶ、黒水の地名之より起りしものなりと云ふ。

附近一帯は未墾地多く従つて産物亦多からず、僅に高粱、粟及線麻、牛馬等あるに過ぎず。當地方の特産品とも稱すべきは上流老哈河の沿岸なる六家子、馬群營子、喇嘛地、古山子、高粱桿甸子、帽子山等の各地に硝石の産出ある一事なり。土人は之を採集して硝石火藥等を製造す。

當地は近く赤峯の大市場を控ゆるが故に商勢は同地に吸収せられ、商工業比較的振はず見るべき取引なし。唯毎月一、四、七の日に開市ありて當日は附近部落の住民群集し穀類、布疋、牛、馬等取引せられ稍々賑なり。

市内には雜貨舖、染坊、藥舖、鐵匠舖、旅店等大小約十五戸及燒鍋二、火藥製造所四戸あり。

(ハ) 三官營子

建平の東北九十支里菜園子の西方三十支里に位し、戸數約七十、人口五百を算するに過ぎざるも、周圍は土壁を以て繞らされ、貧弱ながらも雜貨店、旅店等商家約十五戸（内一戸は燒鍋にして半班の裝置を有す）及巡警局、遊撃隊、小學校等あり。

産物は附近より高粱、粟、其他の雜穀を産するも其額多からず。

當地には毎月三、八の日に開始あり當日は穀類、布疋等の取引行はれ多數の人出ありて相當賑なり。

(ニ) 小河沿



(一) 當地は元と蒙人の一小部落に過ぎざりしが、土地を開放し移住開墾を奨励せしより、滿漢人の來りて永住する者漸時増加し、遂に現今の市街を形成せるものなり。

建平縣城の西北百支里、赤峯の東北約百二十支里に位し、老哈河の右岸に在り。

戸數二百、人口約千三百を算し、巡警局、遊撃隊、郵便局、小學校等の機關を有する半農半商の市街にして周圍は土壁を以て繞らさる。

主なる街衢は東西に亘る一條街と數條の小街とより成り各商店は主として一條街に軒を並べ一見繁盛なれども、街衢は不規則にして且つ不潔なり。

産物は穀類を主とし其他皮手類、甘草、粟、梨等の産出亦少からず。

商工業家の主なるものは燒鍋一、雜貨舗大小約四十、菓子店二、染坊一、旅店十三等なり。

移出品は前記産物にして、移入品は布疋、雜貨を主とす。

當地は錦縣方面より烏丹城方面に通ずる街道上にありて四時人馬の來往頻繁なり。

毎月一、六の日には開市ありて當日は甘草、毛皮類、穀類を始めとし布疋雜貨等上市せられ、遠近より來集する顧客多く頗る賑なり。

商家中德記棧と號する雜貨舗は英美公司の代理店にして、煙草を發賣せる外甘草の仲買をなし、毎年其取扱高二百餘萬斤に及び其大部は赤峯を経て天津に移出せらる。

大取引は各商共掛賣買をなし、秋季收穫に際し穀物を以て決済する慣習なるが故に何れも後庭に糧圃(穀物貯藏場)を備へ、多きは一箇年約三百石を貯藏するものありて、春季相場の高騰せる際賣却又は甘草採取期に之と交換するもの多し。

(ホ) 菜園子

當地は小河沿と同様の沿革により建設されたる市街にして建平の東北百二十支里、小河沿を去る東南七十支里に位し、戸數百余、人口七百五十内外を算する附近唯一の大部落なり。

未だ市街と大書する程度にあらざるも稍々街形を成し、巡警局、商務會、郵便局、小學校等の機關あり。

産物は高粱、粟、其他雜穀等あるも其額多からず。

商業は微々たるものにして、商家二十餘戸あるに過ぎざるも、毎月四、九の市日には穀類、雜貨等市場に現はれ遠近よりの顧客來集し賑なり。

要するに當地の商業は附近部落に對し日用雜貨を供給する程度に過ぎざるなり。

(ヘ) 小哈拉道口

元と蒙人より成る一部落にして建設以來既に三百有餘年の歴史を有する所なり。

赤峯より開魯に通ずる大道上赤峯の東北九十支里、建平の西北約二百支里に位し、戸數約百三十、人



口八百餘を算し、漢滿人其大部を占め、其内商家約四十五戸あり。

市街は東西約一支里の一條にして道幅廣く、周圍に土壁を繞らし、巡警局、遊撃隊、郵便局、税局、蒙鹽分局、商務會、小學校等の機關あり。

産物は羊毛、羊皮、甘草、穀類、等を主とし、就中甘草の産出最も多し。

當地は恰も赤峯、開魯街道と錦縣城、烏丹城街道との交叉點に位し、地の利を占むるも商工業比較的振はず、僅に甘草及羊毛皮の集散地として其名を知らるるに過ぎず。

因に此地に來集する重要産物の年額は甘草約二百萬斤、羊毛一萬斤、羊皮二萬枚なりと。

餘事に屬するも當地の東方約三十支里なる馬蘭廠と稱する戸數十戸内外の部落に稀に見る深き井戸あり。其深さ實に百五十尺に達す。此附近は概して井戸の深さを特徴とし、當小哈拉道口のものも三十尺より淺きものなし。

(ト)、下窪

開魯の西南方約二百八十支里、建平を去る東北方百餘支里、恰も赤峯、朝陽、阜新等に通ずる街道の分岐點に位する一邑鎮にして、戸數約二百二十、人口千六百内外を算し、巡警局、保衛團、郵便局、税局、小學校等の機關あり。

市街は遼河の一支流たる連河(支人は俗に清河と呼ぶ)によりて、東西二部に分たる。而して東街は道

路に沿ひ稍々街形を成し戸數約百戸あり。

西街は即ち下窪の本街とも稱すべく、戸數百二十に過ぎざるも清楚たる田舎市街を形成し、市の西端に大佛寺と稱する喇嘛廟あり。

附近一帶は連河流域の平野にして、地味不良ならず開墾亦至らざるなく粟、高粱、豆類等の農産品の産出多く、牛馬羊豚及皮毛類移出品は前記産物にして、移入品は布疋雜貨等なり。共に主として開魯及小庫倫方面と取引せらる。

一二、開魯縣

(イ)、開魯縣

一、沿革及位置

當地は原名を「ターリンソブルガ」と稱し、蒙古王旗西札魯特旗の所領なりしが、光緒三十一年及三十三年(明治四十年)の二次に亘り開放せられ開墾局を設立し、招民開墾を奨励せしより人口漸次増加し、同三十四年遂に置縣せられたるものにして現今の開魯縣即ち之なり。

通遼縣城(白音太來)の西方約百八十支里に位し、老哈河の左岸平野中に在り。

二、戸數及人口

戸數千三百余、人口約八千と稱せられ、其大部は滿漢人なりとす。



三、市街の状況

市街は東西約一支里半、南北二支里、四周に土壁を繞らし四門あり。  
 民國元年蒙匪の擾亂に際し兵燹に罹り全部悉く灰燼に歸したりしが、交通の發達、地方産業の振興に伴ひ漸次繁榮に向ひつつありし折柄昨大正十三年七月通遼縣、白音太來が洪水に襲はれ未曾有の被害ありて、前途を危惧するに至りしと。小庫倫が駐留せる遊撃隊に荒され半死の状態に陥りたるに原因し、主なる商店の本據を此地に移したる關係上俄然大なる發展を爲し、日に月に膨張し數年前に比し戸數の如きも約三倍に上り、地價も四倍に騰貴するの好況となり前途頗る有望するに至れり。

四、官公衙其他の諸機關

開魯縣公署、兵營、警察所、巡警局、墾務局、郵便局、電報局、稅局、商務會、蒙古土地局、師範學校、高等初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

附近一帯は土地肥沃にして高粱、粟、糜子、包米、蕎麥、大豆、綠豆、瓜子等の農産品多く甘草、曹達河魚(附近の沼池より産するものにして鮒を主となす)及牛馬羊豚等の産出亦少からず。

六、商工業

從來當地と商關係の最も密接なる地方は小庫倫、赤峯、朝陽等なりしが四洮線の開通となり鄭白支線

の開設以來此關係は一變して白音太來との關係漸次密接の度を加へ近時は商業關係即ち諸物資の移出と共に殆ど白音太來と關係を結ぶに至れるのみならず、從來當地と餘り關係を有せざる奥地々方の物資も、此地を中繼地として白音太來に搬出せらるる状況となり殊に既記白音太來及小庫倫に關係する事故の爲めに當地は將來益々多望の地となりたり。而して現在は大小商業約百三十戸を算し、其内雜貨舗大多數を占む。

今試に當地移出入品の種類及年數量を概記せば左の如し。

(イ) 移出品

種類	種類	數量	種類	數量
高粱	子	五〇、〇〇〇石	牛	一〇、〇〇〇頭
瓜子		一五〇、〇〇〇メ	馬	一〇、〇〇〇
蕎麥		一、〇〇〇石	羊	一〇、〇〇〇
大豆		二〇、〇〇〇	豚	一、〇〇〇
粟		一〇、〇〇〇	羊皮	一〇、〇〇〇枚
糜子		二〇、〇〇〇	牛皮	一、〇〇〇



石	腿帶子	腰帶子	赤糖	白糖	坎布	市布	打連布	洋線布	中尺布	大尺布	白麵	燐寸	藥品
七、〇〇〇"	三〇、〇〇〇組	六、〇〇〇筋庫	八〇〇包	七〇〇"	七〇〇"	二、〇〇〇疋	八〇〇捆	一、五〇〇件	五〇〇"	四五〇"	三〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇箱	二二〇"
太西	書籍	洋庫	洋	串	宮	山	鹽	水	線	蓆	線	葉	罐
緞	緞	緞	緞	緞	紗	綢	糖	糖	麻	子	香	草	詰
一、五〇〇疋	二〇捆	五〇卷	七〇"	四〇"	三〇"	二、〇〇〇件	九、〇〇〇石	三、〇〇〇斤	一、三〇〇捆	二〇、〇〇〇枚	三二〇包	二〇、〇〇〇斤	一五〇箱

(ロ) 移入品  
前記の大部は白音太來を経て滿鐵沿線に出て、殘餘は赤峯、小庫倫、方面に移出す

種	類數	量
花旗布	一、〇〇〇捆	五〇、〇〇〇斤
洋蠟	二、〇〇〇箱	一、五〇〇疋
種	類數	量
豆	羽	油
馬	二、〇〇〇頭	草

小	包	大	小	芭	吉	芝	騾
麥	米	麻子	麻子	豆	豆	麻	馬
二、二〇〇"	四〇〇"	五〇〇"	五〇〇"	五〇〇"	五〇〇"	八〇〇"	二、〇〇〇頭
馬	羊	獸	豚	土	面	甘	
皮	毛	骨	毛	城	城	草	
七〇〇"	二五、〇〇〇斤	三五、〇〇〇"	五、〇〇〇"	二〇〇、〇〇〇"	一五〇、〇〇〇"	七〇〇、〇〇〇"	



卷煙草	四、〇〇〇"	染料	一五〇件
紙類	二、〇〇〇"	靴類	二三〇箱
絡洋線	三〇捆	古着類	三四〇包
茶葉	四〇、〇〇〇斤	化粧品	二二〇箱
石鹼	三五〇箱	菜	二〇、〇〇〇斤
陶磁器	六〇〇捆	棉花	一〇〇、〇〇〇"
鐵器	二〇〇、〇〇〇斤	洋釘	四、〇〇〇"

前記の大部は白音太來を經由し、一部は小庫倫、朝陽方面より移入せらる。

工業は燒鍋三、(年醸造高四十萬斤)、磨坊九、豆素麵製造所五、皮革製造所四、其他盆窑及磚窑十は其主なるものなれども規模小にして生産能力低く特記の價值なし。

(ロ) 興隆地

開魯の南方約二百支里、赤峯、朝陽、小庫倫等に通ずる道路の分岐點に位し、戸數約六十、人口五百内外を算す。當地を距る西北十餘支里に奈曼王府あり。

市街と大書すべき程度のものにあらざるも稍々街形を成し巡警局、郵便局、小學校及小規模ながら雜

貨舖並に旅店等の商家あり。

四圍は比較的肥沃なる平野なるが故に農産物殊に高粱、粟等の産出少からず。又外に甘草の集散あり。産物既に豊かにして、且つ附近一帶農村部落に富むを以て、此等部落相手の取引多く商況比較的殷賑なり。

一三、林西縣

(イ) 林西

一、沿革及位置

元と蒙古巴林右翼旗に屬する荒蕪地なりしが、光緒三十三年(明治四十年)之を開放し、開魯荒務局の手により招民開墾を奨め翌三十四年置縣せられ、林西なる地を卜して縣公署を設置せり。之れ現今の林西縣なりとす。

後民國元年蒙匪の亂に際し殆ど占領されんとせしも辛じて之を保ち、同年林西鎮守使を置きたりしが同三年之を熱河道に合併せり。

烏丹城の北方三百三十支里、大板上の西方百六十支里、經棚縣城を去る東方百五十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數約千二百、人口一萬内外に達し、滿漢蒙人雜居せるも滿漢人其大部を占む。



### 三、市街の状況

四百九十八

市街は噶爾蘇台河畔の開豁なる平原中に在りて南北兩面は遙に山嶺を望み周圍は繞らすに方二支里半の土壁を以てし、東西南北の四門を有す。主なる街衢は各門に通ずる中央大街にして、更に左右各三條の小街あり區劃整然として一見繁盛なる市街たり。其内殷賑なるは南北に通ずる大街なりとす。

### 四、官公衙其他の諸機關

林西縣公署、警察所、郵便局、電報局、稅總局、車稅局、畜稅局、蒙鹽支局、煙酒公賣局、稽查局、開墾局、監獄、陸軍司令部、兵營、(步騎砲)、陸軍糧餉局、陸軍衛戍病院、商務會、蒙古翻譯局、高等初等小學校、宣講堂、回々寺院、城隍廟、銀行等あり。

### 五、一般產物及特產物

產物は小麦、粟等の農產物及牛馬羊此等の副產物並に甘草、磨菇等の天產物あり。

農產物は氣候の變化烈しき關係上往々凶作に遭遇すことあるも土地肥沃にして收穫率高く、又產出穀類中小麥は其量最も多く殊に品質住良にして之を原料とする麥粉は美味を以て其名を知らる。

元來當地は商業地と云はんよりも寧ろ政治及軍事上の重要地として知られしが地理的優秀の地點なるより近來商業上にも頭角を現はし經棚縣城等より商店を此所に移すもの多く、爲めに商家は今や約四百五十戸に達し商況頗る活潑なり。

移入品は綿糸布、砂糖、葉煙草、茶其他の雜貨類にして年額八十萬元内外に達す。

移出は年額約六十萬元にして牛五千頭、馬四千頭、羊九千頭、皮革八萬枚、羊毛十六萬斤、甘草二十萬斤を其主なるものとし、其他僅少の粟、蔬菜等あり。

而して商取引の最も頻繁なる地方は赤峯、經棚、烏丹城等なりとす。

工業に燒鍋一(年產十餘萬斤)磨坊專業者二十餘戸兼業者三十戸(此等の年產合して約三百萬斤)、毡子製造所、皮舖、煉瓦製造所等あるも何れも土式にして其產額の上よりするも製粉の外特筆に價するものなし。

### (ロ) 大營子

當地は光緒三十三年(明治四十年)巴林王が旗内の一部を開放せし際天主堂(外國人)の名義により拂下を受けたる地域にして總面積八十頃あり。而して現在開墾せるもの六十頃未開墾地二十頃と稱せらる。林西縣城を去る北方二十支里「ウラシステイ」河流域の地味肥沃なる地帯にありて、戸數百、人口一千内外を算す。住民は悉く天主教徒にして天主堂の經營に係る農場の耕作(天主堂の小作)に従事する農民部落なれども、四圍は繞らすに方一支里の土壁を以てし、東西に通ずる一條及南北に走れる二條の大街より成り街衢整然として東西に各一門を有す。

教會は部落の中央に位置し、優美なる支洋折衷の建築物にして壯麗を極め、配するに周圍に小作者の



家屋を以てし、加ふるに學校、施療場等の機關を備へ宛然一小天主教國を形成し、暗に彼等の確乎不拔なる意氣と遠大の抱負を語るに似たり。

本農場の經營に従事せる洋人は二名の白耳義人にして何れも在支十數年の閱歷を有し、支那語を巧みに操り支那文物制度より習俗の末に至るまで殆ど精通し、問ふて知らざるなく、訊ねて答へざるはなしと云有様なり。當初土地の拂下を受くると同時に移住支人を率いて當地に來り如上の經營を爲すと共に熱心に天主教の布教傳道に従事し、教徒をして安心立命を得せしめ、傍ら耕作を奨勵し、凶作に際しては小作料を全免するのみならず之に米、鹽を送り、或は養育し施療を爲す等全教徒をして後顧の憂を斷たしめ、只管信仰の念を深く確立せしめんとするものにして、目前の利に迷はず、如何に目的の遠遠且つ手段の巧妙にして徹底せるかを、我殖民地當局者及滿蒙開發經營者は大に參考とする價値あらん。

廣大なる蒙古地方には未だ鋤犁の跡を留めず、空しく荒蕪に委せる地帯甚だ多し。邦人たるもの徒に南米へ墨西哥へと騒がすして、此白耳義人に倣ひ深く蒙地へ侵入の覺悟なかるべからず、それが最も近道なり。

當地には一班裝置を有する磨坊兼豆腐製造所あるの外一戸の商舖すらなく雜貨其他の日用品は總て林西市街より供給を仰ぎつつあり。此點何人も意外とする所なるべし。

## (ハ) 大板上

當地は古來より蒙古王族の治域にして現今も尙ほ大巴林王の所領たり、林西を東に距る百六十支里、「チャガムリン」河の北岸なる一小平地に位置し、喇嘛街を合せ戸數七百と稱するも其内眞に集團せるは戸數約百、人口九百内外にして大巴林王府及同旗務公署の所在地なり。

當地は元來蒙人部落なるも、家屋は總て支那式にして案外整然たるものあり、住民は喇嘛を除くの外全部農業に従事し傍ら牧畜を業とす。

雜貨等の商業は、二十數年前移住し來りし支人に依りて營まれ、物々交換的に畜類の取引行はる。而して蒙人の商業に従事するもの皆無なり。

産物は農産品及甘草、家畜、皮毛類にして、農産物は糜子、蕎麥を主とし、外に麻を産するも何れも産額多からず今も辛く自給自足の状態に在り。

此地に東西の二大喇嘛廟あり。何れも白堊丹壁の堂塔加籃にして、遠望實に偉觀を呈す。而して東廟は約四百の西廟は約三百五十の喇嘛僧を有す。四年目毎に舊曆六月十五日より十日間、廟會即ち廟祭行はれ同時に開市ありて遠近より來集する蒙人日に幾千なるを知らず、非常の雜沓を極め此際雜貨及各種畜類等の取引盛なり。

開市期間は前記の如く十日間なるも、商人は開市前後より開店するを以て事實上の期間に少くも二週



日を下らざるなり。取引さるる家畜は牛四千内外馬二千内外羊一萬内外各種毛皮二萬枚内外羊毛十五萬斤内外にして、其内約十分の一は現金賣買なるも他は物々交換なり。而して此開市間に於ける總取引高を金額に見積るときは三十萬兩を下らざるが如し。

一四、圍場縣

(イ)、圍場

一、沿革及位置

元と清皇室の狩獵區域たりし地にして、原名を木蘭圍場と稱し、光緒二年(明治九年)圍場廳を設け二道溝なる地に廳衙を置き、同十二年現在の地に之を移し、更に同二十五年糧捕府と改稱せられたり。後光緒三十二年開墾局を設置し、招民開墾を獎勵の結果農業漸次發達し住民亦増加せしより民國二年(大正二年)遂に置縣せられたるものにして現今の圍場縣即ち之なり。

地名を糧捕府と稱し赤峯を去る西南百八十支里、承德の北方二百二十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數約三百六十、人口二千六百内外にして住民は殆ど全部漢族の移住者たり。

三、市街の狀況

市街の周圍は名のみ土壁を繞らし、南北一支里半、東西約一支里あり。東西南の三面に各門を備へ

街衢は西南より東北に通ずる一條街と之に連る衢街より成り一見貧弱なる市街なり。強ひて此地の特徴とも稱すべきは、道路の兩側に楊樹の並木様のもの若干ある一事なり。

四、官公衙其他の諸機關

圍場縣公署、警察所、稅局、郵便局、電報局、蒙鹽分局、監獄、兵營、商務會、高等初等小學校等あり。

五、一般產物及特產物

產物は麥、粟、糜子、黍等の農產品及木材あり。

元と縣内は自然林に蔽はれ到る所木材の產出を見たりしが、清朝の末葉より禁制破れ濫伐に陥りし結果、現今にては附近に目星しき森林の目に映するものなきに至れり。

藍靛は當地產物の一にして年額約百餘萬斤に達す。其他麻、藥草(黃芩、黃柏、赤芍、烏葉子、桔梗、柴胡)畜類(羊牛最も多く馬豚之に次ぐ)等あるも此地に集散せらるるもの多からざるなり。

又縣内には多からざれども金、寶石、石炭等の產出あるは注目すべき一事たるべし。

六、商工業

當地は未だ商業地として殆ど價值なく其商業勢力は西方九十支里なる天寶山に奪はれ、唯農產物等の集散地たると、縣公署等の官公衙の所在地たる關係上雜貨舖二三、皮舖二、藥舖五、鐵匠舖二、木匠



舖三、麻舖四、銀匠爐二、肉舖三、成衣舖二、錢莊二、飯館大一小一、旅店大五小一〇等合計六十餘戸の商家あるも素より大商賈なし。

商關係密接なる地方は、南方熱河、錦縣城、平泉、凌源等にして北方との關係薄く僅に赤峯、天寶山等と小取引はるに過ぎざるなり。

毎月五、十の日に開市ありて、當日は穀類、布疋、雜貨等市場に現はれ附近部落より顧客來集し相當の賑を呈す。

(四) 銀窩溝

熱河、圍場街道上、圍場縣城を去る西方約三十支里に位置する半商半農的部落にして、戸數約百、人口七百五十内外と稱せられ、其内商家二十餘戸あり。

素より貧弱なる小部落なるも稍々街形を成し、巡警局、郵便局、小學校等の機關あり。

平素は寂寥なるも毎月四、六の日に開市ありて、當日は附近部落の住民來集し、穀類、布疋、煙草及日用雜貨の取引をなし平日に見ざる賑を呈するを常とす。

産物は僅少の穀類集散せらるるのみにして他に特筆すべきものなし。

(五) 棋盤山

當地は光緒三十二、三年頃の建設に係る部落にして、新稜の南四十五支里、天寶山の北方四十四支里

に位し、戸數約六十(大部は商戸)人口六百内外に過ぎざるも兵營、木殖局、蒙鹽局、稅局、小學校等の機關あり。

附近一帯は小麥、燕麥、藍、線麻等の産地にして當地は恰も其集散地に當り、主として熱河其他に移出せらる、就中藍最も多く年額約三十萬斤内外に達すと稱せらる。農作物の作付歩合は大約藍三、粟三、燕麥二、線麻一、蕎麥其他一の割合なり。

移入品は雜貨、布疋、煙草等にして、主として赤峯、熱河方面より移入す。

(二) 天寶山

一、沿革及位置

光緒三十二年(明治三十九年)土地の開放と共に建設されたる市街にして西方に錐形の奇山あるより從來錐子山と稱し來りしが(今尙ほ土人は斯く呼ぶ)民國に至りて天寶山と改稱せられたるものなり。

圍場縣城の西百支里、南方熱河に至る三百支里、多倫を去る東方三百支里に位置す。

二、戸數及人口

當地は數年間に急速なる發達を遂げし所にして、宣統二年より民國二、三年に至る間は一箇年平均千五百餘人の増加を示したりと云ふ。以て其發展の度を窺ふに足るべし。而して現在は戸數約一千、人口八千内外と稱せられ漢民、旗民相半す。



三、市街の状況

市街は城壁なく西方に錐子山の奇峯を負ひ、東は伊遜河に臨み、南北三支里、東西約一支里に亘る。主なる街衢は頭道街、二道街、三道街の三條より成り外に數條の小街之に交叉す。大商店櫛比し最も殷賑なるを二道街なりとす。家屋の大部は瓦葺平屋にして三道街及市街の南端に若干の草葺平屋あるのみなり。

四、官公衙其他の諸機關

兵營、木殖局(開墾及森林事務を司る所なり)、巡警局、税局、蒙鹽分局、屠宰税局、煙酒公賣局、郵便局、電報局、商務會、高等初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

當地に集散せらるる産物は線麻、麥類、粟、藍靛、白麵、家畜、皮毛類、木材、薪炭、藥材(赤芍、白芍、黃芍等)にして就中麻(十萬斤)小麥、粟最も多し。

六、商工業

此地は北方に一大農産地を控ゆると、天然の森林豊富なると、且つ多倫、經棚、林西方面に通する交通の要衝に當れるを以て短き歳月間に荒地の化して都邑となりたるものにして、現今にては遙に縣城たる圍場を凌駕す。

主なる商家は雜貨舖二百八十、布舖十三、皮貨舖十二、菓子舖十五、煙草、石油舖二、金物店十五、染坊三、旅館二十、糧舖二十、麻繩舖十三、藥舖十等合計四百戸に達す。商業上最も密接なる關係を有する地方は熱河、赤峯、糧捕府、錦縣城、多倫、經棚等にして、此等地方に至る道路は大車の通行に何等支障なしと雖、多倫、經棚との交通は牛車又は馱子に依るも尙ほ困難なる所あり。

尙ほ沿道匪賊の出沒常なく爲めに當地の發達上に少からざる支障を與ふ。集散物資の系統を見るに概ね左の如し。

地方別	移入	品目	移出	品目
赤峯方面	羽綢、洋線、緞等	線麻、皮毛類		
熱河方面	天津雜貨	線麻、小麥、粟、藍、白麵		
錦州方面	蹄鐵、赤白砂糖、燐寸、紙類、海産物、洋貨	線麻、白麵、粟		
多倫方面	畜類、皮毛類	線麻、葉煙草、木材		
經棚方面	藍、毛皮類	線麻、葉煙草、麻繩類		
糧捕府方面		木炭薪材等		



工業としては特記すべきものなきも、強いて擧ぐれば麻繩製造所、磨坊、染坊等を數ふるを得るのみなるも、將來は更に發達すべきは疑はざるなり。

## (ホ)、刀把子

多倫より天寶山に通ずる途上、半截塔の東方約二十五支里、天寶山の西方五十支里に位し、戸數約百二十、人口八百内外を算するも、各所に散在せる長き部落にして稍々街形を成すは中間約六十戸に過ぎざる部分なり。然れども商家約二十戸を算し、又巡警局、郵便局、小學校等の機關あり。産物は附近より粟、燕麥、蕎麥、麻の類を産するも其量多からざるなり。

要するに此地方一帯は大部落に乏しく、爲めに當地の如きも邑鎮の一に數へらるるものなり。

## (ヘ)、半截塔

天寶山の西方七十支里、伊嗎都河の左岸に位し。西すること約二百三十支里にして多倫に達することを得。部落の一側に上半部を崩壊し下半部を殘せる古塔あり。半截塔の名は之より起りたるものなりと。戸數約百、人口八百内外に過ぎざる小部落なるも、稍々街形を成し家屋の大部は商戸にして、毎月三八の市日には四圍の住民來集し、穀類、布疋、煙草、麻其他日用雜貨の取引行はれ頗る殷賑を呈す。官公衙としては巡警局、巡防隊、郵便局、小學校等あり。

産物は主として粟、高粱、麻、燕麥等の農産物にして、取引關係の最も密接なるは天寶山なりとす。

## (ト)、新稜

赤峯を去る西方二百七十支里、天寶山の北百支里に位し、英金河の上流に在り。元と市街は當地の東方十二支里なる舊稜に存在せしが、光緒三十二年(明治三十九年)現在の地に移り新に建設されたる部落にして、戸數約五十(内商家約三十)、人口五百内外に過ぎざる部落なるも稍々街形を成す。

官公衙には兵營、巡警局、木殖局、税局、小學校等あり。

當地方は氣温頗る寒冷にして赤峯に比し約一箇月の差ありと稱せらるるも比較的良く開墾せられ、小麦、粟、燕麥等の産出少からず。加ふるに木材豊富なるが故に住民も漸次増加しつつあり。然れども商業に就ては地方的小集散地たるに止まり殆と見るべき取引なく寂寥たり。唯毎月二、七の日に開市ありて當日は附近部落よりの來集者多く、穀類、雜貨、布疋等の取引行はれ時ならぬ賑を呈するを常とす。

當地方所要の雜貨、布疋、煙草其他日用品は主として赤峯、天寶山地方より移入し、穀類、木材を林西烏丹城、經棚方面に移出す。

工業は燒鍋一、鐵匠舗二あるに過ぎず。燒鍋は半班の設備を有し、原料は粟を用ひ製品は當地及附近部落の需用に應じつつあるも、素より他地方に移出の能力なし。

## 一五、經棚縣



## (イ) 經棚

## 一、沿革及位置

元と蒙古克什克騰旗の放牧地にして、康熙の初年頃は喇嘛廟法會の際漢人が露店を設け法會に參集する蒙人を相手の小取引を爲せしに過ぎざりしが、其後蒙古王の許可を得て家屋を建築するもの漸く多きを加へたるより、嘉慶年間に多倫の管轄より分れて白岔なる地に巡檢司を置きたりしが、後現在の地に移したり。道光年間再び多倫の管下に入りしが、民國二年(大正二年)縣治を布きて經棚縣と稱するに至りしものなり。

一名經棚營と稱し西喇木倫の一支流碧流河の上流左岸に瀕し、林西の西方百五十支里、多倫の東北四百支里、赤峯の西北四百三十五支里、南方古北口に至る八百支里に位す。

## 二、戸數及人口

戸數約五百、人口四千内外にして山西、直隸兩省人其大部を占む。

## 三、市街の狀況

此地に娘々廟及關帝廟あり。廟の古碑によれば今より二百年前の建設に係り、漢人の移住は其以前より行はれたるものの如し。現在の關帝廟は光緒二十八年(明治三十五年)より四箇年間に工費四萬兩を費して築きしものにして結構頗る壯麗なり。而して當時は此地の全盛時代なりしなり。然るに民國

二年蒙匪の爲めに市街は一時兵亂の巷と化し、發展上一頓挫を來せしも現今に於ては稍々恢復し漢蒙貿易の重要市鎮たるの地歩に向ひつつあるなり。

市街は方約一支里あるも大小の商家雜然として軒を並べ、道路も狹隘にして凸凹甚だしく一般に街衢は頗る不規則なり。

## 四、官公衙其他の諸機關

經棚縣公署、統領公署、兵營、警察所、監獄、郵便局、電報局、蒙鹽支局、稅局、煙酒公賣所、糧餉局、毅軍稽查所、商務會、初等小學校、克什克騰旗務會、喇嘛廟、回々寺院、天真寺、老爺廟、興隆寺、娘々娘廟、關帝廟等なり。

## 五、一般產物及特產物

產物は燕麥、小麥、粟、豆類、蕎麥等の農產物及獸毛皮、牛馬羊並に藥材等なり。

## 六、商工業

## (イ) 商業

當地は清朝康熙年間より商業盛なる地にして、年と共に發達し、光緒年代は一時隆盛を極めしが、偶々蒙匪の亂により一頓挫を來し且つ近來地の利を得たる林西市場の急激なる發達に伴れ該地に商賈の移轉するもの續出するに至り、現今は大に衰微し大小の商家を合計するも二百戸にして、縣公署其他



の官公衙の背景に依り漸く現状を維持するに過ぎざるなり。

移出品は穀類約五萬石、羊毛二十萬斤、駱駝毛二萬五千斤、羊皮七萬枚、牛皮七千枚、馬皮五千枚等にして移入品は綿糸布、諸雜貨、木材等なり。

商取引上此地と密接なる關係を有する地方は、赤峯、多倫にして烏丹城、熱河地方之に亞ぐ。

此地に内外蒙古遊牧地帯に出入する出撥子店(隊商の根據店)十數戸ありて、年に三、四回隊商を蒙地に送りつつあり。往時に比すれば衰微せしも今尚ほ侮り難きものあるなり。

(ロ)工業

工業は總て小規模なる土式にして製粉業二十三、製紙業一、銀匠舗六、鐵匠舗十、木匠舗九、黒皮舗(製皮及染皮を行ふ所)十五、毯子舗三、銅匠舗二、染坊三を其主なるものとす。

(四)土城子

此地は經棚縣城を去る東西二百四十支里、赤峯の西北三百五十支里、林西の西南、烏丹城の西北各百六十支里に位し、東西兩面に山脈連亘して自然の城壁を成し、北方は遙に五台山を望み、南方約二支里の地點を流るる無名の小河を以て赤峯縣と境す。

戸數約百、人口六百餘、其内商家三十戸内外を算し稍々街形を成す。

官公衙及寺廟には兵營、蒙鹽支局、郵便局、小學校、商務會、老爺廟、清心寺、回々寺院等あり。

産物は小麥、粟、蕎麥、麻等を其主なるものとし、日用雜貨は主として赤峯方面より移入す。

毎月陰曆一、六の日に開市ありて當日は附近の農民來集し、雜貨畜類等の取引行はれ賑なり。

要するに當地は附近部落に對する物資の小集散地たるに止まり、商工業上特記の價值あるもの殆どなし。

第二節 興和道(察哈爾特別區域)

一、多倫縣

(イ)多倫

一、沿革及位置

當地は別名を喇嘛廟又は廟上若くは多倫諾爾と稱す。多倫縣公署の所在地にして、其起源は多倫諾爾なる地に東西大喇嘛廟(東廟は康熙十三年、西廟は雍正九年の建立に屬す)ありて、毎年春秋二季に行ふ開廟祭に參拜する喇嘛僧及蒙古人は幾百里を遠しとせず來集するもの頗る多く、此機に於て此等參詣人に需用品を供給する目的を以て漢人の來住せしに始まる。後康熙の末葉に至り開放せられ移住開墾を奨勵せしより漸次發達し遂に市街を形成し、爾來蒙古貿易の重要市鎮として、今日に至れるものにして民國二年(大正二年)置縣せらるるに當り光緒十七年以來の行政官廳たる撫民廳を廢して多倫縣と改稱せられたり。



張家口の東北四百六十支里、赤峯の西方六百三十支里、經棚の西南四百支里に位す。

## 二、戸數及人口

戸數二千八百、人口二萬二千(喇嘛僧共)に達し住民は蒙人漢人略は相半す。

## 三、市街の狀況

市街は東西約四支里、南北二支里に亘り南方と北方に砂丘ありて北方の丘上に前記の二大喇嘛廟あり此等の砂丘喇嘛及平原は無木の荒涼たる光景と相映つて蒙古氣分を味ふに十分なるものあり。主なる街衢は東西に延長せる三條にして幾多の小街之に交叉す。街幅比較的狭く家屋は概して建築古く且つ全部泥土塗(土葺)屋根なるを以て一見頗る貧弱なり。加ふに民國二年以來再三蒙匪の災禍に遇ひ住民の殆ど全部避難せし事等ありし爲め、市の發展上一頓挫を來し一時は著しく衰退し、今尙ほ完全に復興せざる狀況にありて一見人をして之が名にし負ふ漢滿貿易の最前線に於ける重要市場なるかを疑はしむ。

## 四、官公衙其他の諸機關

多倫縣公署及其附屬官署、鎮守使公署、警察所、郵便局、電報局、稅局、墾務局、遵義堂、戒煙公所、北口蒙鹽局、小學校、善因寺、彙宗寺、城隍廟、關帝廟、三官廟、山神廟、靈祐寺、興隆寺、碧雲宮、回々寺院、中國、交通、察哈爾興業銀行各支店等あり。

## 五、一般產物及特產物

燕麥、粟、蕎麥、毯子、牛、馬、羊及獸毛皮等あり。

## 六、商工業

元來當地は外蒙各地に對する物資の集散市場たると喇嘛廟あるとを以て市の體面を維持するものにして、其所に一種云ふべからざる經濟上と宗教上との錯綜せる奇現象を呈す。

移入品は主として張家口に仰ぎ、赤峰、經棚方面よりは煙草、麥粉を移入し、木炭及木材は圍場より來るもの多し。移入品中、茶(約八萬兩)綿糸布(約九萬疋)砂糖(十萬斤)及麥粉雜貨等は更に察哈爾及外蒙各地に移出す。

移出品の大部は畜產物にして其年概數は、牛馬各約三萬頭、羊毛七十萬斤乃至百萬斤、羊皮四萬枚等にして、主として京津地方に移出し、又馬、牛皮は滿洲及直隸の各地に販出せらる。

工業としては毯子(羊毛緞子)防寒帽、皮靴、皮襖等の製造盛にして、就中毯子の製造は最も重要なものの一たり。

又此地は蒙地を巡廻する行商隊の有名なる根據地にして、之に關する商店も約八十戸に達す。

當地に一大名物あり。他なし俗に所謂廟會と稱し毎年舊曆六月十三日より三日間既記善因寺と彙宗寺の二大喇嘛廟(僧數二千人)に於て行はるる喇嘛廟祭は即ち之にして、祭典と同時に大規模の開市あり







## 第六章 附録 外蒙古

### 第一節 一般事情

#### 一、地形

庫倫烏里雅蘇臺以南の地と以北の地とは餘程趣を異にし、以北は山嶽あり河川あり又森林あれども、以南は高地なきに非ざるも多くは丘阜に屬し、而して河川と森林とは皆無と稱して可なり、其一例を擧ぐれば、張家口より北に進み外蒙古地帯に入りて庫倫に達する間、若くは庫倫より南行、歸化城に至る間に於て、庫倫の南端に存在する圖拉を除く時は、溝ども云ふべきもの二、三ある外、河と名づくべきものなく、樹木と稱すべきものも全く眼に觸れざる如き之なり。されば外蒙古の地形を約言すれば高平原地の四字にて盡く。

#### 二、道路

別に修築したるものにあらざる自然路なれども地質が土と砂と礫の三者より成る關係上、路盤堅く五、六噸積荷物自動車すら其通行に支障なき實狀なれば一般人馬の來往自由なり。

路幅は一定せざるも路側に水田も畑地も存在せず、總て草を以て覆はるゝ平地にして必ずしも通行出來ざるにあらざるが故に、其幅は無制限なりと稱ふるも敢て過言にあらざるなり。

#### 三、運輸



上記せし如き道路なれば自動車の交通自由にして現に庫倫、張家口間の如き、庫倫滿洲里間の如き、庫倫買賣城(恰克圖)間の如き其運行を見つゝあるも、主たる交通運輸機關は、人の乗用には馬と駱駝を用ひ、又牛車を使用す。乗用の馬匹は小柄の固有蒙古馬と大柄の雜種(蒙古馬と洋馬との)馬なるが滿洲馬に比し其質遙に善良なり。彼等蒙人の乗馬振を見るに、彼等は幼少の頃より家畜に親しみ、五、六才にして馬背に遊ぶほごありて、其馬術の巧妙なる制御の卓越なる驚嘆の外なきなり。鞍上人なく鞍下馬なしとは彼等の馬術を指して云ふの語なるべし。

#### 四、通信

廣き外蒙古に郵便局(電信は別)に僅に三個、電信局亦五、六に過ぎず。されば通信の多くは驛站若くは特別使又は行人の託送により行はる。其原始的なる、其幼稚なる、不便の程察すべきなり。

余曾て長期に亘り外蒙古内地を旅行の當時、約百日間通信を絶ちたる爲め、上司及び家族は余の安否を氣遣ひ屍を平原に晒し居るに相違なしと判定せし。歸來後彼等は無事に歸りしは結構なるが、せめて途中端書一枚にても呉れしならんには斯る心配をせざりしに云々、余とてもこれを知らざるにあらざりしも、全然通信の途なきを如何にせん。要するに足一度外蒙の奥地に入らんか、全く文明界に絶縁となり、世の出來事を知る術もなく知らす由もなく、云はゞ期限附にて冥界に入りたるに等しきなり。

#### 六、産物

産物は牛馬羊駱駝類の家畜と其副産物たる毛と皮とを主とし、外に數種の藥草と天然鹽と野獸を産するも、一言にして盡せば家畜の二字にて盡く。家畜の確數は統計の據るべきものなきを以て、容易に知り難きも、余の調査に依れば羊四千萬牛百萬馬駱駝各五十萬内外なるべし。

#### 七、風俗

(イ) 結婚と其前後の内幕 親戚又は友人が中間に入り、媒介の勞をとり兩親が決定する迄は、我が國も同様なれども、當の本人に何等の交渉なきをもつて、未來の夫婦は互に關知することなく、兩親の素振の上より、内々もしやと推斷するのみ。殊に面白きは、見合と云ふものもあるも、こは本人同志の見合にあらずして親同志の見合なり、見合と云はんよりも會見なることなり、斯くて生涯の苦樂を共にすべき花嫁花婿が決定する、されば開けて口惜しき玉手箱、興入當日初めて顔見合せ、美婦を得て喜び醜婦を娶りて悲しむ男のあると同時に好男子を獲て喜に入り醜男を差附けられて嘆く女ある如き珍らしからざるなり。蒙古にては吉凶禍福喇嘛によらざるもの殆んどなし、従つてこれ等の縁組にも喇嘛坊主が關係す、彼等の讀經に始まり讀經に終りを告ぐ、爰に奇怪なるは喇嘛僧中に、往々善からぬ輩ありて、讀經の折家人をしりぞけて、娘のみをその席に侍らせしめ怪しからぬ振舞をなすこと往々あり、我が本願寺の惡僧中にも、聽聞に事よせて家庭に入り、後家や淫亂娘に、途方もなき説教を施す輩あり、殊に天理教、大本教等には更に甚しき實例ありと云ふ人もあれば、他國人のみを非難する能はざるも、兎に角喇嘛は蒙古にとり害毒を流布すること多し、厄介至極



の宗教と云ふべし。

四

外蒙にては一家(大抵は一室なり)に二夫婦以上同居するものあり、多くは兄弟夫婦なり、又兄弟夫婦のかたはらに、未婚の弟が就寝する如き毫も珍とせず、茲に於てか不倫的幾多問題の發生することあり、この場合二夫婦の間必ずしも没交渉ならずして、互に對角線的に連絡あることあり、嫂と弟等と同様交渉あることあり、従つて嫂にして、弟と瓜二つの子を持つ如きこと無しとせず、珍と云ふべきか怪と稱すべきか。

(ロ) 鹽氣なき食物 蒙古一般の食物は牛乳、羊肉(ゆでたるもの)炒米(いりたる一種の黍様のもの)の三者にして、家庭に在りては、多少の鹽氣を取るも、牛車又は駱駝に附隨する旅行者は、全然鹽氣を取ることなし。其理由を質せば、鹽氣を取れば渴を生ず、然るに途中水を得ること容易ならずと云ふにあり。されば彼等は七、八十日に亘る長期の旅行間一匙の鹽を用ひざれども、何等保健上に支障なし。筆者も彼等と行動を共にし、同一の食物を以てせしも異状なかりしなり。此實驗上醫者の説必ずしも頼むに足らざるを覺ゆ。尙家庭者と旅行者とを問はず、野菜は全く食せずと稱して可なるべきに、八十歳以上の長命者も少からざる事實を見ては愈々以て醫學の餘り當にならぬを思はしむ。

(ハ) 手数多き女装 外蒙の既婚婦人の頭髮は、根元を緊縛して之を左右の二條に分ち、一種の木片を用ひて大鎌様の形を造り、平面の廣き部分を前に向け、狭き面を上方にし、尖端を垂らし氣味に下に向け、前方より見るときは水牛の角かと疑はるゝ形に結ばる。聞けば此髪を結ぶには、二人又は三人掛にて約半日を要

すと。此關係上髪を洗ふと云ふこと、一生に一度あるかなしと云ふ始末なり。食物の關係にや、血色佳く所謂櫻色の美貌者も少からざれども、此等の不潔を知りては百日の戀も何とやらとなりて消失すべし。

爰に注意すべきは、彼等が此緊縛式面倒なる髻を有するより髪の衛生に有害なりと見え、三十歳を過ぐれば疾くも其過半数は頭の中に砂漠が出来、四十歳頃に至れば藥罐頭となるもの多し、丸髻等日本髪を戴く我婦人にもこの事なきか。衛生上經濟上改むるの要なしとせざるべし。

上衣は、陣羽織様にして兩肩の突角に於て、綿を心に入れ、上へ向け駱駝の背にある瘤に似たるものを造り居れり。其製作亦中々複雑にして、五日や十日の日數内に出来上るものと思はれざるなり。云ふ迄もなく、其洗濯は頗る面倒なるより破るゝ迄其儘なり。即ち一度之を着るときは其命數の存在中洗濯さるゝ氣遣ひなし。

(ニ) 驚くべき長距離の競馬 蒙人の馬術に長ずるは實に先天的にして、邦人などの遠く及ばざるは、既に略述せしところの如し。蓋し彼等は幼少の頃より殆ど歩行せざるものにして、足一たび戸外に出づれば、忽ち馬上の人となるものとす。其術の巧妙なる寧ろ當然の事に屬すべし。而して其術に長づるは、獨り男子のみにあらずして女子も略ぼ同一なり。彼等の遊藝彼等の娛樂は、競馬と角力にして、角力は柔道着に類する毛皮を着すると、別に土俵なく倒れざれば負とならざる點を異にするの外、我國のものに髣髴たるも、競馬は其距離頗る長く、三分や五分間に勝負を見る我競馬とは、大いに趣を別にす。今其一例を左に示さん。

五



庫倫の西北方約九十支里に於て、毎年舊曆六月二十一、二十二日の兩日に亘り競馬を施行す。其距離は、七十五支里の往復なるを以て百五十支里とす、之を我陸軍の規定に従ひ一支里を五町十二間として計算すれば、實に二十一邦里餘に相當す。

其決勝點には、王公、活佛等も威儀を正して控ゆるものにして騎手は一生の名譽、晴の舞臺として身命を惜まず飛躍し疾驅す。而して其途中の落馬、終了後の疲勞(想ふに激動よりする心臓の痲痺ならん)等の爲め、往々一、二名甚だしきは三、四名の死者をすら見ることあり。人口の稀薄なる外蒙に於て此競馬を見んと四方より集る者十萬人と號せらる。以て其盛況を想像すべし。

(ホ) 珍妙なる西藏の禮式 西藏は、少くも調査上暗黒界なる丈けに、習俗に於ても未だ世上に知られざる珍奇なるもの多きが如し、今庫倫附近に住す彼等の途上に於ける禮式を紹介せん。

彼等が途上に於て相會ふや、距離三、四歩の所にて停止し、帽を脱して右手に支へ、舌を「べろり」と出して右方より左方に一回轉せしむ、之が相當年輩者の間に行はるゝ場合は、左して彼此なきも、妙齡の男女に於て、雙方略ぼ同時に舌を長く「べろり」と出し、回轉運動を爲すを見ては、釋迦も孔子も吹き出さざるを得ざるべし。珍妙なる風俗もあるもの哉。

## 第二節 都市

### (イ) 庫倫

#### 一、沿革及位置

當地の沿革に就ては正確なる歴史の據るべきものなきもこれを蒙人の學者に質せば、喇嘛本山の所在地として創設されしは約二千年の昔なりと。然るに喇嘛の都市以外に廣く外蒙古の首府として認むるに至りしは、清朝の英主康熙帝に依り外蒙全地帯を其領域として統一されしに始まるなり。其後清朝の亡びて民國となるや、北京政府との關係を絶ち露國勢力の庇護下に獨立政府の首府となりしが、民國四年露國は歐戰酣なる爲め外蒙に於ける勢力を支持するの餘裕なく、支那政府の要求せる宗主權を認めざるを得ざるに至り、蒙支間の關係は比較的良好に緩和されしも、尙ほ支那政府より何等の制肘を受くることなく自治制を保持せしなり。

越えて民國七年、徐世昌大總統の下に段祺瑞が參戰督辦として北京政府の支持者たるに及びて國內小康を得、殊に參戰國加入の結果として支那が國際的に頗る有利の立場となり財政も多少饒となりたるより、同八年突然百餘輛の自動車をも以て軍隊を此地に輸送し、一兵を損せずして完全に之を占領し、外蒙の獨立自治を取消さしめ、陳毅及除樹錚等が北壽邊使として庫倫に威名を馳せたるは、今も世人の記憶に存すべし。變轉常なき支那政界は、民國九年安直兩派の鬭争に端を發し、第一第二次の奉直戰となり、未だ外蒙を顧みるの遑なかりしも、一旅の參戰軍は本國の政情不安の裡にも尙ほ庫倫にありて其占領を保持せり。然る



に此軍は偶々白露の殘軍ウランゲル等の襲ふに際し、蒙古軍の挾撃する所となり、覆滅の運命に逢着せり。茲に於てか庫倫は又々支那政府と無關係の都市に復歸せり。ウランゲルの此地占領後活佛を中心として再び自治政府を組織し其所在地たりしが、約半歳後同人等の赤露軍の爲め驅逐され外蒙全域の赤露の手中に歸するや、直に活佛中心の自治制を取消し、新に赤露に準ずる共和自治制を布き其の首府として今日に至りしものなり。

露領恰克圖の南方約八百支里、張家口の西北約三千支里、圖拉河の右岸汗山の北麓、四圍山を繞らす盆地に在り。

二、戸數及人口

戸數約八千人口七萬を算す。赤露の手中に入らざる以前は人口約五萬なしが、其後急に増加し如上の數に達せしものなり。七萬の人口を大別すれば、蒙人約五萬五千支人約四千露人一萬餘西藏人約四百とす。此蒙人五萬五千中に喇嘛坊主二萬餘を含有するは、人をして道に喇嘛の都たるを思はしむ。

三、市街の狀況

市街は東中西の三部より成り其東なるは東營子又は買賣城と稱し、中なるは、露國の租借地、西なるは本庫倫なり。三部とは云ふものゝ其間概ね家屋の存在を見るが故に、始めて此地に足を入るゝものは、迂濶者ならずとも其區分（東營子丈は千米突計り分離しあるも）を見落すべし。

三部中、東部は寂寥なる商業區、中部は住宅及び一部の官公衙地區、西部は物資集散の中心地にして、各種の市場あり種々の取引行はる。同時に宏壯雄大なる二個の喇嘛廟あり、其一をアイタリスムと稱し活佛の參拜するもの其二をガンダンと稱し高等修行場たるものとす。斯くて其周圍に無數の僧房あり。

四、官公衙其他の諸機關

赤露の手に歸して以來、官公衙を始め總て赤露式に變化せり。即ち其官署も立法機關府たる參政委員、行政機關府たる全蒙古中央委員會、更に赤露に於ける國家保安部に等しき最高の絶對的權能を有する内防委員會及此等に隸屬する多數の官公署あり。尙ほ此等機關の樞要なる地位を占むる者は擧つて露人なりとす。軍隊亦概ね之に同じ。

五、産物

牛馬羊駱駝等の家畜並に其副産物たる毛皮類、藥草、野獸皮の部類にして此一帶より移出又は輸出さるゝ數量は現下不判明なれども、最近同地より歸來せる一邦人及時折此地に出入する支人の言を綜合するに概ね左の範圍にあるが如し。

羊	十五萬頭	馬	二萬頭
牛	一萬三千頭	羊毛	三十五萬貫
駱駝毛	三萬貫	山緬皮	九千萬枚



馬皮	六萬枚	牛皮	十五萬枚
野獸皮	二十萬枚	鹿角	千對
麝香	二千斤	藥用角	四千對
麝蛤(木の子)	二萬五千貫	松材	八萬石

六、商工業

既記せし産物を送り綿糸布及各種雜貨を移輸入し、商業は稍々見るべきものあるも、工業に至りては更に記すべきものなし。

通貨は一時支那の大洋票(張家口中國銀行支店發行)に限られたるが、政變後は不明なり。惟ふに露國の金ルーブル並にルーブル紙幣と此大洋票との混合流通なるべし。

七、雜件

當地は宗教政治及び經濟の中心地たる關係上、東京、京都及び大阪を打つて一九としたる小なる集合體の觀あり。赤き僧衣を纏ひたる喇嘛の來往頻繁なる露人支人蒙人西藏人等の雜然往來する杯、到底他都市に於て見るべからざるものあるなり。當地が赤露に歸して以來一般風俗特に婦人のそれが一變し、老婆ならざる限り、上衣は古代の服なるも斷髮に踵高の靴を穿つ等日に赤露式に變りつゝあるなり。驚くべき變化 *какаясь*。

(ロ) 烏里雅蘇臺

當地は政治的歴史に於ては庫倫よりも古く曾て將軍の駐在せし時代の如き、其繁榮も之に優るものありしが如くなるも、清朝が外蒙を統一し庫倫を重視せし以來年と共に凋落し、今や其片影すらも認め難く、其歴史を熟知する者にして始めて舊都の跡たることを偲ばしむるものあるのみ。

庫倫の西方約二千支里に位し、丘阜地帯の連互する高原地に在り。市街(と云ふも大袈裟なれども)は周圍に土壁の殘骸を留むる舊城と買賣城の二より成るも、舊城には十數個の天幕式蒙人家屋あるのみ。

買賣城には戸數三百五十(此内二百……但し夏は二、三十……は蒙人の天幕式)人口千六百ありて、其内譯は蒙人六百支人四百露人四百ブリヤード百五十回教徒(支人)十其他四十とす。一時二名の米人は約二十名の支那店員と共に居住し、盛に商業を営みたりしも、此地の赤化後引揚げ今も不在の筈なり。

此等居住者の外に外蒙貿易に従事する所謂隊商なるものありて、其數支人約二千名露人約三百五十名に達し此地を根據として各地方に活躍す。

公共物として兵營、郵便局、商務會等あり。外に赤露式官署あり。産物は家畜及其副産物たる毛皮類と山貨(藥草及木の子の類)とす。

此地は外蒙貿易上重要な地歩を占めたる時代ありしが、輒近此地と歸化城方面に對する商路に變化を生じ、



漸次庫倫に繁榮を奪はれ、年と共に衰退に赴き其影の甚だ薄きは此地の爲めに惜むべし。  
(ハ) 買賣城

此地は歴史淺く創設後尙は百年にも達せず。露支の國境に位し、露領の恰克圖と指呼の間に在り。本來支那領の當地と露領恰克圖と「トロイツコサウスク」とは殆ど連続せる關係上、世上此三省に冠するに單に恰克圖を以てする者なしとせざるも、此事たる滿洲の安東と朝鮮の義州とを同一地と看做すに等しきなり。戸數六百八十人口三千九百を算し、所謂城内の周圍は木柵に依りて圍まれ、諸官署、兵營、郵便局、電話局、露國領事館等皆城内に在り。又此地の東北約七百米突に露人の經營に係る製革所あり。住民は露支蒙人の混淆とす。然れども城内即ち柵内は支人を南柵外は蒙人を東柵外は露人を主とす。革命後大に類れたれども、近く露領の恰克圖及「トロイツコサウスク」に天空を摩して聳ゆる大建築物の存在するに比し、買賣城の市街は一見頗る貧弱なれども、實利主義の勤勉なる支那商の活動する最前線の堅塞なれば、其富力商力の意外に強大なるものあるなり。

産物は家畜及其副産物たる毛皮類を主とし、露人との間に此等の産物並に移入諸雜貨の取引行はる。帝政時代の露國は國境……特に支那との……の設備に重きを置き、國力の強弱を具體的に表示せんことを努め、一見甲(露)乙(支)の懸隔頗る大にして、到底乙の甲に敵すべからざることを思はしむる政策を把持せしが如し。又一般に當時の露國は、大都市若くは國境の名を知らるゝ所に兵營の建設を避け程遠からずして名の著

はれざる地點に之れを置きたるに似たり。此二事項たる玩味に價するものあるべし。



昭和二年一月二十五日印刷  
昭和二年一月廿八日發行

【定價金七圓】

著者 富山縣東礪波郡廣塚村  
山田久太郎

發行所 東京市麴町區元園町一丁目二十七番地  
日刊支那事情社

印刷所 東京市麴町區有樂町二丁目三番地  
朝陽印刷株式會社

印刷人 東京市麴町區有樂町二丁目三番地  
吉岡清



大正十五年十一月二十日	大正十五年十一月二十日	大正十五年十一月二十日	大正十五年十一月二十日	大正十五年十一月二十日
東京市	東京市	東京市	東京市	東京市
山田	山田	山田	山田	山田
大	大	大	大	大
浪	浪	浪	浪	浪

「支那金小冊」







